

ビンナガ 北太平洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



利用・用途

刺身や缶詰原料として利用される。

漁業の特徴

日本の竿釣り、流し網、日本と台湾のはえ縄及び米国とカナダのひき縄で漁獲されている。流し網やまき網でも漁獲されるが漁獲量は少ない。竿釣り及びひき縄漁業は北緯 25 ～ 45 度で夏～秋に行われ、未成魚（2 ～ 5 歳魚）を漁獲する。はえ縄漁業は北緯 25 度付近より北側では冬～春に未成魚及び親魚（6 歳魚以上）を、その南側では周年親魚のみを漁獲する。

管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）
 全米熱帯まぐろ類委員会（IATTC）
 北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会（ISC）

最近一年間の動き

2011 年 6 月に ISC で資源評価が実施され、資源状態は健全で、現状（2006 ～ 2008 年）の漁獲圧は過剰ではないとされた。2012 年の漁獲量は 8.2 万トン（暫定値）でほぼ前年並みであった。次回の資源評価は 2014 年 4 月に予定されており、2013 年 11 月にデータ準備会合が行われ、資源評価モデルが必要とするデータ（漁獲量、CPUE など）及び資源評価モデルの基本的な設定の検討が行われた。

漁業資源の動向

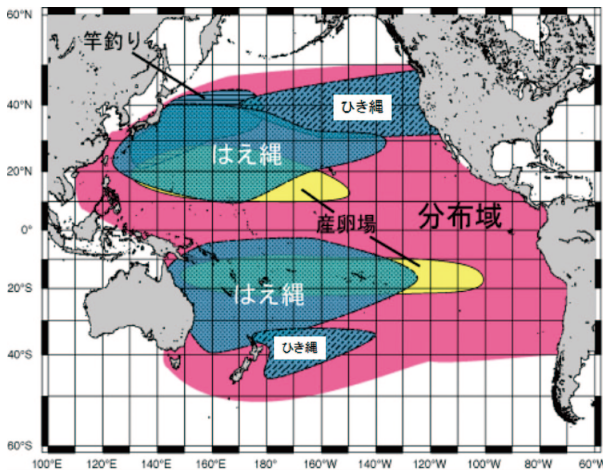
1950 ～ 1960 年代に約 5 ～ 9 万トンであったが 1970 年から増加し、1976 年に最大（12.7 万トン）となった。その後、漁獲量は減少し、1991 年には 3.7 万トンまで減少した。この減少は主として日本の竿釣り及び米国のひき縄の漁獲量の減少によるものであった。その後、著しい増加に転じ、1999 年には 12.6 万トンに達し、史上 2 位を記録した。その後は、年変動はあるものの、減少傾向にあり、2012 年の漁獲量は 8.2 万トン（暫定値）でほぼ前年並みであった。

生物学的特性

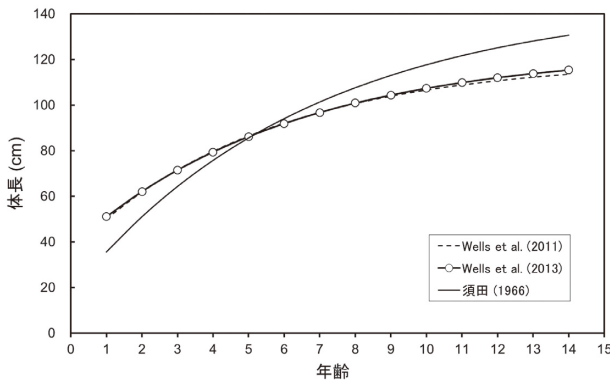
- 寿命：16 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳
- 産卵期・産卵場：4 ～ 6 月が盛期、台湾・ルソン島からハワイ諸島近海（水温 24℃ 以上の水域）
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

資源状態

資源状態は健全で、現状の漁獲圧は過剰ではないものの、解析の不確実性、加入量の変動（減少）の可能性を考慮して、漁獲圧を増加させない必要があるとされた。



ビンナガの分布と主な漁場



北太平洋ビンナガの年齢と体長（尾叉長、cm）の関係

管理方策

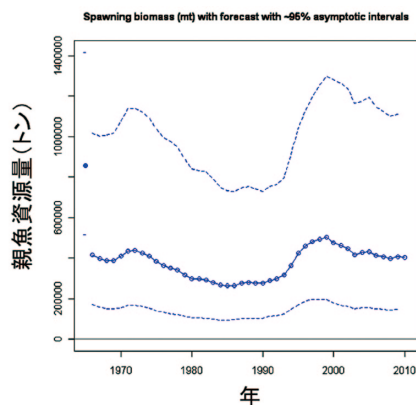
資源状態が健全であるとの 2011 年の ISC 報告を踏まえ、中西部太平洋では WCPFC が、東部太平洋では IATTC が 2005 年に採択した保存管理措置（漁獲努力量を現状（2002～2004 年水準）より増加させない）により、継続して管理している。

資源評価まとめ

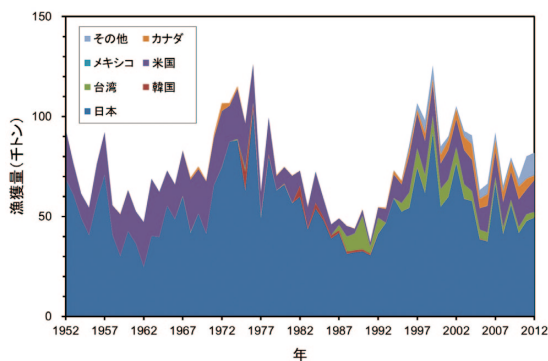
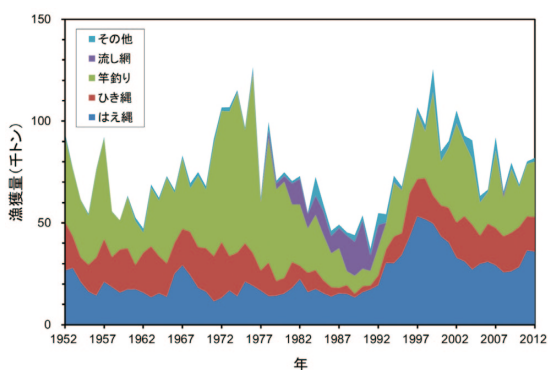
■現状の資源量は歴史的に中位水準にあり、資源は健全であると考えられる。

資源管理方策まとめ

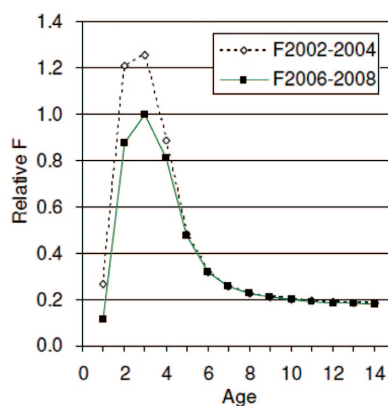
■努力量をこれまでよりも増加させないことにより管理。



北太平洋ビンナガの加入量の推移
 実線は最尤推定法（もっともありそうな値）。点線はその推定値の 95% 信頼区間。

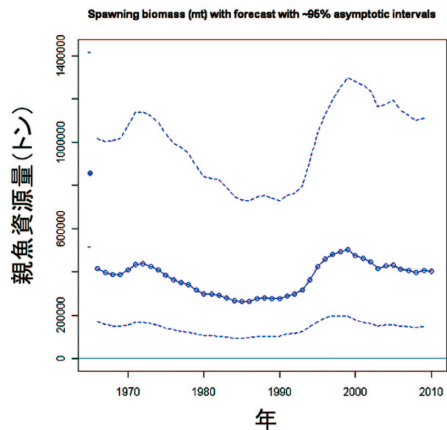


北太平洋ビンナガの漁法別漁獲（上図）、国別漁獲量（下図）



推定された漁獲死亡係数

ビンナガ（北太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近 5 年間）	6.5～8.2 万トン 平均：7.5 万トン (2008～2012 年)
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	4.1～5.6 万トン 平均：4.7 万トン (2008～2012 年)



北太平洋ビンナガの親魚資源量の経年変動
 実線は最尤推定法（もっともありそうな値）。点線はその推定値の 95% 信頼区間。